

ハイデルベルク信仰問答より

問 72 ただ、外的な水の洗いそのものが、罪を洗い潔めるのですか。

答え いいえ、違います。なぜなら、イエス・キリストの血と御霊だけが、私たちをあらゆる罪から潔めるのであります。

ここで問題となっているのは、「水で洗う」という行為そのものが罪を洗い清めてしまうのかどうかということです。つまり、洗礼という儀式そのものに罪を拭う力があるかどうかと問われているのです。もうお分かりかと思いますが、答えはノーです。どんなに水をかけても、どんなに水に沈めても、人間の罪がなくなることはありません。それでは何のために洗礼式を行なうのか。この行為はあくまでも「罪が赦された」「罪がきよめられた」ことの証なのです。では、一体何が私たちの罪をきよめたのか。それが「イエス・キリストの血と御霊」です。水はこれに代えられるものではありません。

私は、悔い改めに導くために、あなたがたに水で洗礼を授けているが、私の後から来る人は、私より力のある方で、私は、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたがたに洗礼をお授けになる。(マタイ3:11)

ここでバプテスマのヨハネは、自分が水で授けている洗礼は主イエスがこれからなさろうとしている「聖霊と火」による洗礼には及ばないと告白しています。「火」は審きを連想させることばですが、ペンテコステには信者に注がれた聖霊の型として現れました(使徒2:1-13)。火が鉄を溶かして精錬するように、聖霊は人の心を熱してきよめるのです。それに対して、水によるヨハネの洗礼は外的なしるしに過ぎませんでした。

しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。(Iヨハネ1:7)

ここでも、罪をきよめるのは「御子イエスの血」によると書かれていて、「水」ではありません。繰り返しますが、水は聖霊によってきよめられたことの外的しるしなのです。

ここまで学んできますと、それでは洗礼にはさほどの価値はないという誤解が生じるかもしれません。しかし、主イエスは宣教命令の中で命じておられます。

だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。(マタイ28:19-20)

聖霊をお与えになる主ご自身が洗礼を強く勧めておられるのです。しかし、それは決して形式ではなく、その人の罪が主の血潮によって跡形もなく処理されたことを明らかにするものとしての洗礼であります。